

三ツ森児童館・早通児童センター・葛塚東児童館・豊栄児童センター  
指定管理者申請者評価会議 議事録

1 開催日時 平成 28 年 10 月 5 日(水)午後 1 時 50 分から午後 3 時 30 分

2 開催場所 新潟市北区役所 3 階 第 2 会議室

3 出席委員(4名)

風間 良光 (風間良光税理士事務所 所長)  
 倉島 敏弘 (北地区連合会自治振興会 会長)  
 小池 由佳 (新潟県立大学人間生活学部 准教授)  
 松田 正實 (北区豊栄地区コミュニティ協議会連合会 会長)

4 北区健康福祉課出席職員 (4名)

課長 山田 暢大  
 課長補佐 呉井 敦  
 児童福祉係長 渡辺 剛  
 児童福祉係主査 田村 千津

5 傍聴者無し

呉井補佐	<p>ただいまより三ツ森児童館・早通児童センター・葛塚東児童館・豊栄児童センター指定管理者申請者評価会議を開催いたします。</p> <p>本日の欠席はございません。</p> <p>また、申請者の資格審査の最終結果について、資格の制限に抵触しておりませんでしたことを報告いたします。</p> <p>なお、公開プレゼンテーション、ヒアリングの傍聴の申込みはありませんでした。</p> <p>はじめに、北区健康福祉課長の山田より、ご挨拶申し上げます。</p>
山田課長	<あいさつ>
渡辺係長	<p>それでは、本日の会議の流れについてご説明いたします。</p> <p>申請者は1団体のみです。この後、申請者プレゼンテーションを15分間行います。次に質疑応答を10分間ほど行った後、5分ほどで採点表に記入していただきます。</p> <p>その後、20分ほど休憩をはさみ採点結果を集計します。</p> <p>最後に、委員の皆さまから講評をいただきます。</p>

呉井補佐	ただ今の説明について、何かご質問はありませんか。
各委員	<質問なし>
呉井補佐	それでは、ただいまより、指定管理者申請者による公開プレゼンテーション・ヒアリングを開始します。 委員の皆様、よろしくお願いします。
	<特定非営利活動法人新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター入室>
呉井補佐	ただいまより、公開プレゼンテーションを始めます。 特定非営利活動法人新潟県ワーキングウーマン・サポートセンターのプレゼンテーションを始めてください。
新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター	<プレゼンテーション>
呉井補佐	ありがとうございました。 それでは、質疑応答に入ります。委員のみなさま質問をお願いいたします。
小池委員	法人の目的に、「働く女性のために」とあるが、その観点から今回の応募について、どのようにお考えか。
新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター（古田島理事長）	子どもを預かることが働く女性のためになると考え、事業としては社会福祉法人として保育園を一番最初に立ち上げた。そこから、子どもに関わる事業をいろいろやってみようとNPO法人を立ち上げ、その経過の中で児童館・児童センターも運営したいと考えた。
小池委員	応募の動機で、8年間の貴重な経験があったと説明があるが、特に力を入れてきた点を教えてほしい。
新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター（粕谷早通児童センター長）	最初の3年は、豊栄児童センター1館の指定管理で、平成24年度以降の5年間は4館の指定管理となった。4館になってからは、4館一緒になって真剣に児童館運営に取り組んできた。特に力を入れてきたことは、乳幼児期の親にとって「安心して利用でき、いつでも相談できる場所」にできることにすること。乳幼児期に親子で安心して利用いただければ、子どもが小学生になってからも継続して利用いただくことができ、かかわれる。
小池委員	さしえなければ、今後やってみたいことを教えてほしい。
新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター（粕谷早通児童センター長）	これまで、子育てに関する出前講座はできなかった。早通児童センターとしては、地域の人が集まれる場所を活用した出前講座を、乳幼児期向けや小学生向けの親子遊びなどの内容で行えたらと考えている。
小池委員	人材の確保について、何かこうしていきたいというものがあれば教えてほしい。

新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（古田島副 理事長）	有資格者の人材確保には実際のところ苦勞している。 有資格者でなくとも、基本に「子どもが好きだ」という気持ちを持っていることを第一に考え採用し、児童厚生員の資格を採用後に実際に働きながら研修に参加し、資格取得してもらおうようにしている。
小池委員	人材確保には苦勞されていることと察するが、現在は滞りなく人員を確保できているか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（古田島副 理事長）	今現在、滞りなく人員を確保できている。
松田委員	一つ目として、「発達段階に応じたきめ細やかなプログラムの提供」と書いてあることについて、具体的にどういうことであるのかを教えてほしい。 二つ目は、実際に毎日来ている利用者のリピーター率がどうなのか、おおよその傾向で構わないので聞きたい。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（島津豊栄 児童センター長）	例えば、乳幼児期のプログラムとして定期的実施しているものは、子どもが1歳期には親子のふれあいを大切に遊ばせ、2歳に近づくとつれ運動の要素を多く取り入れていくようにしている。 利用者については、小学生のころから利用している児童が高校生になるまで利用するなど、リピーターが多い傾向である。
風間委員	質問というよりお願いになるが、決算報告書の部分の記載で、法人にかかわる会計士か税理士の見落としがあったと解釈されるような記載となっている部分があるので、正式な記載方法を確認し改善してほしい。
倉島委員	決算報告書の内容から、経営としては厳しいように感じるが、メディアシップにある法人事務局の賃貸料はかかっているのか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（古田島理 事長）	メディアシップでは、「子育て広場」を設置した後、「子育て支援センター」事業を開始した。その場所を法人事務局としているので、賃貸料はかかっていない。
渡辺係長	現在、新潟市においては、全市的に子育て支援講座に積極的な取り組みが進んでおり、今年度で言えば新潟市全体で「初めての子育て支援事業」としてBP講座を実施している。また、各区の取り組みの中で、NP講座やペアレントトレーニング講座等の子育て支援講座も広がりを見せており、児童館でそうした講座を実施している区もある。北区の児童館・児童センター職員の中には、各種子育て支援講座の講師資格を持った職員が複数いると認識しており、実施のための費用の話は別に協議が必要とは思いますが、法人として4館指定管理の強みを生かしながら、北区の児童館・児童センターで子育て支援講座を行っていく意向はあるか。

新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター(古田島理 事長)	<p>児童館・児童センターの営業内の事業として行っている事業でない講座について、講師をするために職員がシフトから頻繁に抜けてしまうことには、不都合がある。児童館・児童センターの人員体制が大変になる。</p> <p>しかし、各児童館・児童センターでの事業として行っていけるような形であれば、新潟市の事業に協力したい。</p>
山田課長	職員配置について確認したい。現在の豊栄児童センターの職員配置は何名であるか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター(古田島理 事長)	現在は7人である。
山田課長	平成29年度の配置予定人員が6名になっているが、大丈夫であるのか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター(古田島理 事長)	現在の7人体制は、勤務できる時間が短い職員がいるため。次年度も、必要があれば7名体制にする。
山田課長	利用者数が多くなってきている中、児童センターのスタッフが大変なのではないかという部分で、切り詰めた運営で無理は生じないか心配される。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター(古田島理 事長)	法人本部からの応援職員の派遣もできているので、大丈夫である。
渡辺係長	社会福祉法人とNPO法人で、保育園や子育て支援センターや児童館を運営されており、いろいろな子どもに関わる職員がいる中での人材育成という部分で、相互交流研修のようなものは内部で行っておられるか。また、これから行う予定はあるか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター(古田島理 事長)	相互的な内部研修は実施していない。保育士と児童館職員それぞれの専門的な研修を重視している。
小池委員	子育て支援について、今回の申請書の「地域における子育て支援事業に対する考え方及び内容」にあるとおり、すでにやっているのであれば、その内容を教えてほしい。また、先ほどの質問への回答の中で、早通児童センター長から「今後こういう方向でやっていきたい」という話があったが、他の3館についても、乳幼児期の子育て支援についてどのようにお考えか聞きたい。各館どのような特徴があり、どのようなことに力を入れているのか教えてほしい。

新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（島津豊栄 児童センター長）	豊栄児童センターでは現状、小中学生向けの行事が多い。0歳児について、赤ちゃんを抱っこして行えるベビーダンス等の回数を増やしていきたい。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（小川三ツ 森児童館長）	お母さんたちが安心して過ごせる場の提供を充実させたいと考えている。今年度、0歳児向けに「おいでおいで赤ちゃん」という名称で、お母さんたちが互いに子どもの成長を話し合ったりできる場を継続して設定している。お母さんたちが互いにつながって支え合い、その後の子育てに生かされていくと良いと考えている。年齢に合わせた遊びの企画も計画している。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（佐藤葛塚 東児童館長）	子どもたちの体の成長に合わせた運動遊びの講座を継続して行っている。また、お母さんたちのリフレッシュになるような講座や乳幼児期前半向けの行事を考えている。三ツ森児童館同様、0歳児親子向けに毎週火曜日集まれる場を設定しており、支援を広げていきたい。また、豊栄児童センターを紹介して、お母さん同士の交流を促していきたい。グループ活動が苦手なお母さんに対しても、個別で関係づくりをして支援できるようにしている。
倉島委員	予防・苦情への対応体制がよくできているが、実際にどのような苦情があるか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（古田島理 事長）	例えば昨年度、豊栄児童センターの体育館で小中学生と乳幼児が一緒に遊んでいては危険と判断して、使用時間を年齢別で区切る方針を決めて対応をした。その際には、それまで時間の区切りなく自由に使えていた一部の利用者から、改善要望・苦情があった。法人の方針に賛同する意見もあった。 「サイレント・マジョリティ」「物言わぬ多数派」がいることも念頭に置きつつ、苦情や要望について改善できることは対応していきたい。
松田委員	人材育成について、研修の中身はどのようなものであるか。
新潟県ワーキング ウーマン・サポート センター（古田島理 事長）	年に1回全国の児童館長向け研修会があり、これは児童館を運営するにはどんな行事を実施するのが良いのか・どんな注意を払うべきか・どこに人材が眠っているか等、児童館運営のノウハウを学ぶ研修となっている。 また、児童館職員向けに、講義と実技による遊びの指導の仕方を学ぶ研修もある。 その他、緊急時に備えた救急救命実技研修会等。
松田委員	最近、学校においても特別支援が必要な子どもが増えている。児童館に来る子どもの中にも、そうした子どもがいると思われ、適切に対応するためには、発達障がい等についての研修機会が必要と考えての質問だった。発達障がいへの理解を深めるための勉強は必要と考える。
呉井補佐	ありがとうございました。これで終了となります。 審査の結果につきましては、後日ご連絡をさせていただきます。

	<特定非営利活動法人新潟県ワーキングウーマン・サポートセンター退室>
	<採点>
	<集計結果の発表・評価>
	<閉会>